

合資会社松下工業所

クラウド型ERP導入により生産管理と販売管理のシステムを一元化

生産工程の可視化により計画的な作業が可能となり、製品クオリティも向上、入力時間の削減とペーパーレス化を実現

1 従来の課題

Task

当社は金属塗装・工業塗装の専門業者として、特に精緻な技術が必要とされる防衛装備品の塗装を行っています。防衛装備品の塗装は仕様が細かく、仕様に適した作業記録の管理も要求されます。

本事業の着手前、生産管理業務は従業員各々が属人的に行っていたため、作業進捗などの情報共有が難しく、管理業務の効率が悪い状態でした。

また、生産管理と販売管理を別々に行っていたため、同じ内容の入力業務が双方で発生するという問題に加え、作業記録を紙で保管しているため、過去の記録を探すのに時間がかかり、保管のための管理コストも発生していました。

さらに、業務の指示出しは社長が行っていたため、社長の不在時に業務が進まないこともあり、社長がどういった情報を基にどのような判断をして指示を出していたか、業務プロセスの見える化をすることで、従業員がそれを見て判断できるような体制の構築が求められていました。

2 取組概要

Approach

本事業ではクラウド型のERP(基幹情報システム)「GEN」を導入しました。

システム導入後は、クラウド上で作業内容を記録し、工程の進

捗をリアルタイムで可視化することで、担当者以外でも状況を把握できるようになりました。

同時に、少量多品種の塗装品(製品写真、各製品の作業工程、使用材料、単価など)をデータベースで一括管理し、過去の作業内容を誰でも簡単に参照できるようにしました。

また、受注から生産、請求・入金までをシステム上で一元管理し、受注の入力業務を削減、生産管理とともに販売管理の生産性向上を図りました。

3 実施効果

Effect

進捗状況を可視化することで、管理者が的確に作業を割り振れるようになり、ボトルネックの発生がなくなりました。

同時に、完成までの工程も可視化でき、リードタイムを把握できるようになったことで、納期から逆算して各工程に期限を設定することや、遅れが生じてい



QRコードを読み取り



システムに登録



工程指示書

COMPANY PROFILE

- 業種 金属塗装業
- 事業内容 金属塗装・工業塗装
- 創業 1952年8月
- 代表者 代表社員 松下 英敬
- 所在地 神奈川県川崎市川崎区塩浜3-28-15
- 従業員数 12名

<https://matsushita-paintworks.com/>



る製品に対して早めに対処することが可能になったのも大きな効果です。

作業の優先順位が可視化されたことで、ムダな動きが少なくなり、限られた納期の中で計画的に余裕を持って作業に取り組むことができるようになり、製品のクオリティも向上しました。

さらに、工程指示書で全体の生産工程が見えるようになったことで工程の説明がしやすくなり、新入社員教育などにも役立っています。

生産管理と販売管理のシステムを一元化したことの効果としては、入力時間の削減の他、クラウド上で作業できるため、複数の担当がどこからでも入力できるようになったことが挙げられます。

<システム導入による効果>

生産管理・販売管理システム一元化による入力作業の削減時間数

10時間 → 5時間(週)

成功の決め手・秘訣

システムはできる限りシンプルに設計し(最初から多くを求めすぎない)、作業者の負担を可能な限り減らすこと(やることが多くなりすぎると反発を招く)に留意、作業者の心理的ハードルを下げる工夫を重ねたことでスムーズに受け入れられるようになったこと。

社員の声

以前は指示待ちが目立ちましたが、システムへの入力がいっでもどこからでもできるようになったことで、社内の連携プレーが進み、時間に関する考え方が変わりました。

工程指示書により全体の生産工程が見えるようになったことで、新入社員でもすぐに理解しやすく、教えやすくなりました。

今後の展開

生産管理システムの運用は軌道に乗り始めましたが、システム内に蓄積されたデータの活用が今後の課題です。登録された実績の人事評価への反映や、生産計画立案の自動化に今後は取り組んでいきたいと思っています。

具体的には、図面や仕様書をスキャンするだけで品目マスタや工程マスタを自動で反映できるようなシステム、受注入力するだけで自動的に効率の良い最適化された生産計画が作れるようなシステム、製造実績を登録することで、生産計画からズレが生じた際に自動で微調整できるようなシステムを作りたいと考えております。

ひらめきポイント・経営者の気づき

ITを使った最先端の生産管理を行うことは、生産性の向上だけでなく、他社との差別化にもつながると考えております。また、社員にITが浸透していくと、「システムを使うことでこういうことができるのでは」という発想が出てくることにつながるとも考えています。

「誰か一人に頼らない組織づくりを目指す」ことを掲げて、情報を見て能動的に動き、従業員それぞれが個性や特徴を活かし、誰かに依存することなく自立して仕事ができるフラットな組織が理想です。情報を共有できるようになった今回の取組が最初の基盤になり、理想とする組織像に一歩近づいたと考えています。



代表社員 松下 英敬